

事例

聴覚障害児との交流保育事業

上野市社会事業協会（三重県） 〒518-0131 三重県上野市ゆめが丘5-14-1 TEL 0595-22-9955

活動の概要

- ・対 象 三重県立聾学校幼稚部 4歳男児 1名
ゆめが丘保育所 4歳児 41名
- ・目 的 聴覚障害児が同年齢の健常児とふれあい、年齢発達にあったあそびを経験します。
- ・回 数 月4回（毎週水曜日）
- ・時 間 毎回 午前9時～午後1時
- ・開 始 平成14年6月5日
- ・その他 母子通園

法人の概要

昭和23年（1948年）、大戦後の民間社会福祉事業を振興するため、有志の民間人が相寄って上野市社会事業協会を創立。上野市第一幼児保育所（現・曙保育園）、第二幼児保育所（現・睦保育園）の経営を引き継ぐ。昭和27年（1952年）、厚生大臣より社会福祉法人に組織変更認可。その後、新分野を開拓しつつ現在では、児童福祉施設19、老人福祉施設4、障害者福祉施設4など27の施設を経営する社会福祉法人となりました。

- 経営施設数…27
- 法人全体の年間事業収入…2,231,859千円
- 主な経営施設

保育所 曙保育園	昭和23年設立	定員180名
保育所 睦保育園	昭和23年設立	定員90名
保育所 三田保育園	昭和30年設立	定員60名
保育所 中瀬城東保育園	昭和30年設立	定員115名
	その他	

実施施設の概要

- 施設名…ゆめが丘保育所
- 施設種別…保育所 定員180名

施設の運営方針

乳幼児の心身の健やかな発達をはかるとともに、保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるように支援します。さらに、小規模地域子育て支援センター事業を実施し、地域に在住する未就園児家庭の子育て支援を行ないます。

活動の内容

- 活動対象者…聾学校幼稚部 4歳児1名、ゆめが丘保育所 4歳児41名
- 活動の頻度…月4回。1回あたり4時間
- 年間延利用者数…48名
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

・当保育所を運営する社会福祉法人上野市社会事業協会は、心身障害児療育施設「かしのみ園」を運営し、障害児の療育保育の研究、実践に長く取り組んできました。職員は、障害

児の療育保育について深く理解し、熱意があります。

- ・三重県立聾学校より交流保育の依頼がありました。
- ・当所に本児の弟が在籍しています。
- ・当所に手話ができる職員が在籍していることと、本児の受け入れを機に、法人内の手話教室に職員が参加し、手話のレベルアップをはかりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

- ・コミュニケーションの取りにくい聴覚障害児が、活発な4歳児クラスに入ることへの危険性を感じたので、主任保育士が本児がクラス的环境に慣れるまでサポートしました。
- ・クラスの子どもや担任保育士との信頼関係ができるまで、母子通園をしてもらいました。
- ・主任保育士が手話教室に通い、日常会話程度の簡単な手話を全職員で練習しました。
- ・給食費と教材費の実費程度を徴収しました。

■利用者の声、地域の反応

- ・本児は、園生活が楽しいので休まず通所してきました。その姿に母親も健常児とのふれあいが本児にとって良かったと思えたようです。
- ・障害をもたない児童は、本児とのコミュニケーションをはかるための工夫をするようになりました。
- ・障害をもたない児童は、交流を通して本児の障害について分かろうとし始めました。
- ・本児は、当初、補聴器を使用することをいやがったが、5歳児クラスになった時、友だちともっとかかわりあいたいという思いが強くなり、補聴器を使用するようになりました。
- ・障害をもたない児童の保護者から、子どもが

家庭で指文字や手話を時々使っていることを聞かされました。このことが障害を社会全体で自然に受けとめられていくきっかけとなればと思います。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

- ・母親が市内の聴覚障害者の団体や手話サークルに積極的に参加したり、内容を詳しく知ろうと関心を持ち、関係づくりを始めました。
- ・本児が当園の交流保育を利用することを機に、家族で地域のさまざまな活動や行事へ積極的に参加するようになりました。
- ・聾学校小学部で専門的な教育を受けながら障害をもたない児童との交流がはかれる、このようなシステム作りが望ましいと思います。